

# 教科教育 音楽

## 分野の概略

音楽教育全般に関して広く研究し、初等中等音楽科教育に携わる教員を目指す大学院生を対象として、理論と技能の深い探求と獲得を基盤とした授業実践力の育成を目指します。音楽教育学を基盤として、西洋音楽はもとより諸民族の音楽や我が国の伝統音楽に至るまで幅広い音楽の研究を通して音楽科教育の今日的課題を認識し、課題解決のための実践的研究に取り組みます。1年次は基盤実習、実践的指導力高度化実習Ⅰを軸に、音楽科教育の指導法、教材開発に関する基礎研究を通して自身の研究の基盤づくりを行います。2年次では、実践的指導力高度化実習Ⅱに取り組みながら、自身の教科専門領域の器楽、作曲、音楽教育学に関する個人指導を通して、教科の専門性を高めます。

## 教員と専門分野

|       |            |
|-------|------------|
| 長谷川 慎 | 音楽教育学・日本音楽 |
| 長谷川慶岳 | 作曲・音楽理論    |
| 後藤友香理 | ピアノ        |
| 服部 慶子 | ピアノ・音楽教育学  |
| 東屋敷尚子 | 声楽・音楽教育学   |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- ・児童の自己有用感を育成する音楽授業の工夫  
-「気づき」を基盤とするドラムサークルを通して-
- ・生徒がより音楽に親しむための鑑賞授業の開発  
-〔共通事項〕を柱とした指導法の工夫-
- ・小学校や中学校における「音楽づくり」に関する授業実践についての研究
- ・小学校音楽科における対話的な学びについて
- ・発達段階を踏まえた中学生への歌唱指導のあり方の検討
- ・中学校合唱指導におけるわざ言語-その特徴と教育的価値-

# 教科教育 美術

## 分野の概略

美術に対する社会的要求の変化と多様性の中で、学校教育・社会教育の観点に立って創造性や造形力や感性を陶冶する美術教育を追究することをめざします。その主な要点は、①学校教育及び社会教育の観点から、美術教育の内容と方法の一層の多様性と質を追究する、②平面や立体の総合的な造形制作において、新たな研究課題とその表現方法を追究する、③情報メディアに関し、時代のニーズに沿った造形制作の研究課題とその表現方法を追究する、④国際的なヴィジョンに立って、美術作品を鑑賞したり評価したりする能力や新たな造形創造や構想の能力を育成する、等です。理論と実践の統合を目指し、図工及び美術科教育の教育目標・教育内容の変遷について基本的な理解を身につけ、教科の主要な指導方法や主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を学び、新たな教材の開発を試みます。これを踏まえ、美術教育・美術理論及び造形制作を通して総合的力量を備えた美術指導者の育成をめざしています。

## 教員と専門分野

|       |        |
|-------|--------|
| 占部 史人 | 絵画     |
| 名倉 達了 | 彫刻     |
| 川原崎知洋 | デザイン   |
| 芳賀 正之 | 美術科教育学 |
| 高橋 智子 | 美術科教育学 |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- ・中学校美術科における表現及び鑑賞の題材開発に向けた基礎理論の研究
- ・高等学校美術科における創造力と省察力の育成を目指した指導に関する研究
- ・表現と鑑賞領域における美術・デザイン題材の開発及び研究
- ・表現と鑑賞の一体化を意識した題材開発及び指導内容に関する研究

# 教科教育 保健体育

## 分野の概略

保健体育科教育は、これまでの運動種目そのものが目的になっていた体育学習や健康や安全に関する要素的知識の伝達と行動変容が目的になっていた保健学習からの転換が求められています。そのため、保健体育教育分野では、運動ならびに健康や安全に関する科学的認識の発達を目指し、「体育や保健の見方・考え方」を鍛えていく体育授業・保健授業の構築に必要な専門性を身に付けるためのカリキュラムを設定しています。保健体育を教科として学ぶ意義を視座に、「教科の目的－内容－方法」の一貫性に留意して授業設計・授業実施・授業評価・授業改善のできる資質・能力を高めるための視点を学び、教科の本質にせまることを企図しています。

高度化実習では、課題研究のテーマに関連した授業実践なども含めて、理論と実践の往還による資質向上を目指します。

## 教員と専門分野

|       |             |
|-------|-------------|
| 岡端 隆  | 運動学・器械運動    |
| 赤田 信一 | 保健科教育学・学校保健 |
| 野津 一浩 | 体育科教育・保健科教育 |
| 杉山 卓也 | 体育・スポーツ心理学  |
| 屋代 滯  | 体育科教育・舞踊教育  |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- ・「見方・考え方を鍛える」視点からの保健体育授業の構想
- ・体育科・保健体育科における教科カリキュラムの編成に関する研究
- ・資質・能力の育成を企図した保健体育科の学習評価に関する研究
- ・運動種目主体の体育授業から運動種目を利用して考える力を高める体育授業への転換
- ・「健康や安全に関する原則や概念」の理解を深める保健授業の構想

# 教科教育 技術

## 分野の概略

技術教育(Technology Education)は、現代の高度に進歩した生産技術に対応するSTEAM教育として、特に重要な位置にあります。技術の世界は幅広く、そこには奥が深く限りない学習が待っています。また、児童・生徒に、いかに理解しやすく指導するかを教授法の問題として研究することも必要です。

技術は、科学的に明らかになった法則や理論を活用し、社会に有用なものを生み出していくためにあります。教科教育分野(技術)では、技術を教育するための理論と学校教育に適した方法を探る実践の両方を研究していきます。そのため、教育カリキュラムは、工学や農学を基礎とした専門の内容に関する講義と、講義から得た知識を基に実際に設計・計画、製作・制作・育成を伴う教材の研究・開発を行う実践的な演習から成り立っています。研究成果を学会などで発表する研究活動を通じて、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を備えた大学院生を育成します。

## 教員と専門分野

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 紅林 秀治 | 設計とシステムに関する技術教育 |
| 室伏 春樹 | 情報に関する技術教育      |
| 鄭 基浩  | 木材加工に関する技術教育    |
| 改正 清広 | 電気に関する技術教育      |
| 藤井 道彦 | 生物育成に関する技術教育    |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- ・中学校技術科における木材加工教育の方法および木質教材の開発に関する研究
- ・技術教育における教材設計と評価に関する研究
- ・中学校技術科における探究的な学びが可能な機械教材の開発に関する研究
- ・中学校技術科教材における理科・数学概念の転移に関する研究
- ・中学校技術科における多面的評価を重視した生物育成教材の開発に関する研究
- ・発達段階に応じたプログラミング教育の実現に向けた教科横断的教材の開発および指導に関する研究

# 教科教育 家庭科

## 分野の概略

家庭科教育分野では、主に家庭科の中等教育教員を目指す院生を対象として、教科の専門性をふまえた教材開発力、授業構成力等を育成することを目標としています。具体的には、人間生活の基礎単位である家族・家庭を軸に、人の発達や福祉、家族関係、家庭経済・経営・管理の機構、生活の場で用いる衣・食・住などの「もの」と「人」との相互関係としての現象や技術、それらが作り出す環境について学び、指導の手立てと評価のあり方をふまえた家庭科の授業構成力を育成します。また、教育現場において追究したいテーマについて、多様な専門的観点から教員と院生が議論や実践を通じて学びを深めていきます。

## 教員と専門分野

|        |           |
|--------|-----------|
| 村上 陽子  | 食品学・家庭科教育 |
| 冬木 春子  | 家族関係学・保育学 |
| 小清水 貴子 | 家庭科教育学    |
| 竹下 温子  | 栄養学・予防医学  |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- ・SDGs時代をふまえた家庭科における消費者教育教材の開発と実践
- ・持続可能な社会の構築を目指した家庭科教材の開発と実践  
～教科横断的視点から～
- ・家庭科における家族・家庭生活に関する学習と性別役割分業意識との関連
- ・主体的・対話的で深い学びを促す家庭科の授業研究
- ・高校家庭科の生活科学に着目した教科横断型授業への教材研究

# 教科教育 英語

## 分野の概略

外国語の教授及び学習に関する国内外の文献の講読等を通じて、より複眼的に実践を捉え直すための理論的知識を深め、学習者の知識・技能、興味・関心等に合わせて、より質の高い授業づくりのできる指導技術を学修することを目指します。

課題研究においては、指導教員の指導のもと、学生の興味・関心に応じた探求テーマが設定でき、英語教育の現代的諸課題に加え、英語学や英語文学、異文化理解等の関連分野の発展的な知見を活かし、時代が求める英語指導上のテーマに取り組みながら、理論と実践の往還を行います。授業科目においては、英語に留まらず、文系分野を教科横断的に学修することにより、他分野からアイデアを得たり、英語学や英語文学の知見を学んだり、奥行きのある英語の授業を行える力量を身につけることをねらいとします。

## 教員と専門分野

|            |               |
|------------|---------------|
| 矢野 淳       | 英語教育学・小学校英語教育 |
| ビーター・クレメンツ | 英語教育学・ライティング  |
| 大瀧 綾乃      | 英語教育学・第二言語習得  |
| 河村 道彦      | 英語学・日英語比較     |
| 森野 和弥      | 英語文学・アメリカ演劇   |
| 丸山 修       | 英語文学・英詩       |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 探究テーマ例

- 学部卒院生
  - ・中学校・高等学校英語科のライティング活動における効果的なエラー訂正方法の開発
  - ・英文法指導における明示的帰納指導の効果
  - ・高等学校英語科における法助動詞の効果的な指導法の開発
- 現職院生
  - ・中学校英語科における Task-Supported Language Teachingを通じた oral fluency 育成のための指導とその効果
  - ・中学校英語科における ICT活用の留意点と機械翻訳使用についての提言

# 生徒発達支援

## 分野の概略

子どもは様々な支援ニーズを持っており、学校では支援ニーズの高い生徒に対して心理的な支援だけでなく、キャリア教育も含めた学習支援も同時に行います。こうしたことから、日々成長していく子どもに対して様々な角度からの支援を提供できる人材が求められていると言えます。

本分野では、教育心理学や臨床心理学の観点から子どもを深く理解し、それに基づいて生徒指導、発達・学習支援等を遂行できる指導・支援力を育成していきます。

## 教員と専門分野

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 小林 敬一 | 教育心理学(教授学習)・社会心理学 |
| 小林 朋子 | 学校心理学・学校臨床心理学     |
| 上山瑠津子 | 発達心理学             |
| 鶴見 周摩 | 知覚・認知心理学          |
| 渡邊 昇司 | 生徒指導・教育相談         |
| 大村 高弘 | 生徒指導・学級経営         |

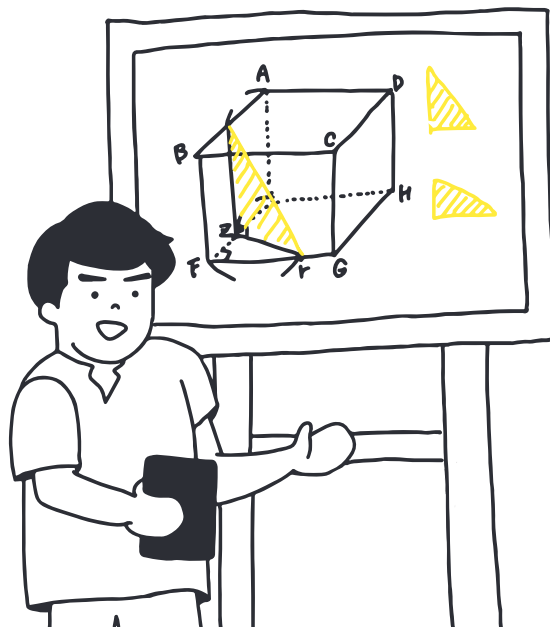
※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 主な授業科目

生徒発達支援概論  
 学校心理学の理論と方法  
 臨床心理学の理論と方法  
 発達心理学の理論と実際

## 探究テーマ例

- ・ チームとしての学年部会が小学校 1 年生の「困難さへの支援」を省察する効果 — 教師の省察による見方の変容と不適応児童の変容 —
- ・ キャリア教育における概念マップを活用した継続的省察 — 主体的な職場体験を目指して —
- ・ 黙想実践を通じたセルフマネジメント力の育成 — 生徒指導における浜松の黙想文化を SEL の視点から捉える —
- ・ 高校数学の授業における机間指導法の開発 — マイクロデザイン・アプローチを用いて —
- ・ 小学校高学年における学級経営行動の分析 — 「ズレ」のマネジメントという観点から —



# 特別支援教育

## 分野の概略

小・中学校には発達障害が疑われる児童生徒が 8.8% 在籍しているといわれています。また、2026年に中央教育審議会より報告が出された次期学習指導要領に向けた論点整理では、多様な子供たちの深い学びを実現すべく、通級指導教室の拡充を含めた特別支援教育のさらなる充実が求められています。このような状況にあって、特別支援教育に対する教育界の期待はますます高まっており、専門性の高い教員の養成が求められています。特別支援教育分野ではこの使命のもとに、現職院生においては特別支援教育に関する高度な知識・技能を備えるとともに、学校や地域において特別支援教育のリーターとして活躍できる資質・能力の習得を目指します。学卒院生では障害の種類や程度に応じた子ども理解に基づく支援や指導等を遂行する指導・支援力を養成することを目指しています。

## 教員と専門分野

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 香野 毅  | 障害児心理学・発達臨床実践            |
| 山元 薫  | 知的障害・教育課程・授業論・ユニバーサルデザイン |
| 石川 慶和 | 病弱教育・障害児心理学              |
| 村上 広美 | 発達障害・精神疾患・グループアプローチ      |

※「教員と専門分野」は2026年度に基づく

## 主な授業科目

発達障害の理解と対応  
 特別支援教育の現状と課題Ⅰ  
 ユニバーサルデザイン授業論  
 障害児の認知発達とその支援  
 発達臨床・特別支援の実践から学ぶ  
 特別支援教育の現状と課題Ⅱ  
 特別支援教育における授業デザイン

## 探究テーマ例

- ・特別支援教育コーディネーターが機能する中学校の特別支援教育ネットワークの構築
- ・通級指導教室における発達障害をもつ児童の指導
- ・通常の学級の児童と自閉症・情緒障害特別支援学級の児童が共に活躍できる交流及び共同学習の取り組み
- ・知的障害と肢体不自由を併せ持つ子どもと教師の個別指導場面における相互変容
- ・知的障害教育における国語科の指導に関する研究—「教科の系統性」、「発達」、「生活」を軸とした grow-model を基盤として—

